

# 令和7年度学生意識調査結果報告—性の多様性—

## 【実施期間】

2～4年生:新学期オリエンテーション(4/7～4/8)で実施

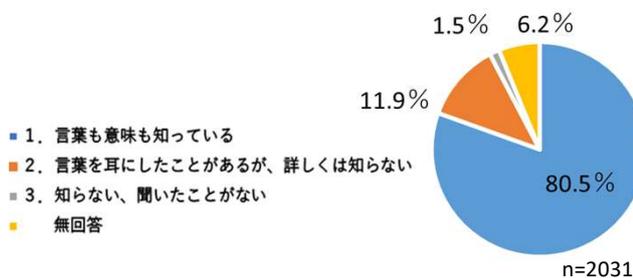
1年生:9月～10月の全学共通教育及びコース科目内で実施

## 【用語に関する知識について：設問(1～4)】

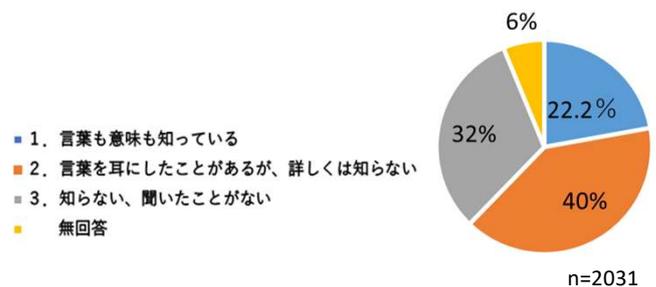
性の多様性に関する用語のうち、「LGBTQ」「カミングアウト」は、約8割の学生が「言葉も意味も知っている」と回答したが、「SOGI」「アウティング」は、7割の学生が「詳しく知らない」「知らない・聞いたことがない」と回答。

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

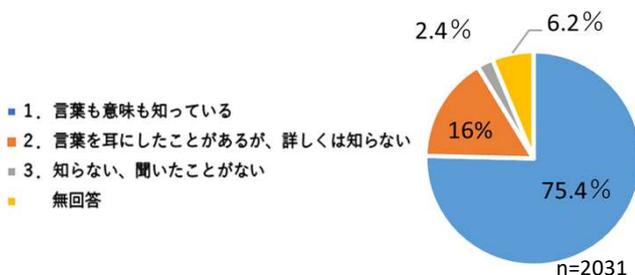
(1) LGBTQという言葉を知っていますか。  
またその意味を知っていますか。



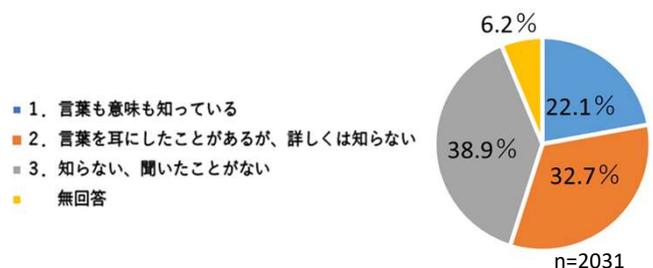
(2) SOGIという言葉を知っていますか。  
またその意味を知っていますか。



(3) カミングアウトという言葉を知っていますか。  
またその意味を知っていますか。



(4) アウティングという言葉を知っていますか。  
またその意味を知っていますか。

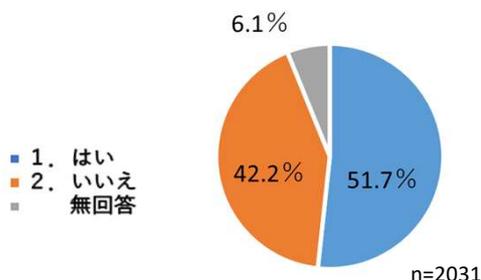


## 【大学の環境について：設問(5～10)】

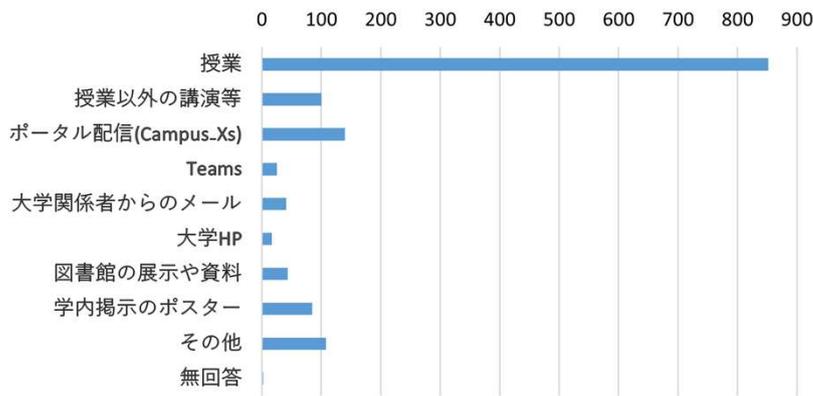
約5割の学生が学内でLGBTQ等の情報に触れている。触れた場所として最も多いのは授業。LGBTQの学生にとって「過ごしにくい」と感じている学生が少数ながら存在。

「考えたことがない・感じ方がわからない」と回答した学生が多数。

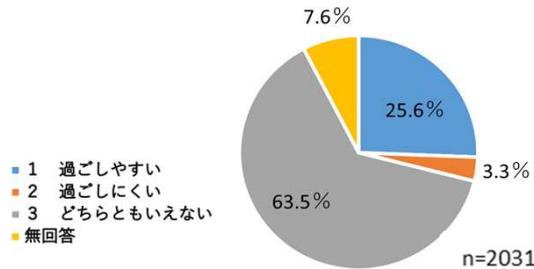
(5) 過去1年間に(新入生は入学後)、本学でLGBTQ等、性の多様性に関する情報を見聞きすることがありましたか？



(6) LGBTQ等、性の多様性に関する情報をどのような場面で見聞きしましたか。(複数回答可)



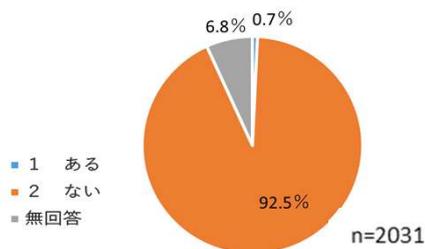
(7) 県立広島大学はLGBTQの学生に対して どのような環境だと思えますか。



(8) (7) の理由 (意見を分類して表示)

「過ぎやすい」の理由		件数
授業・イベントなどで学ぶ機会がある		33件
施設 (All Gender/多目的トイレ) がある		29件
多様性に配慮している		26件
差別的言動を見聞きすることがない		70件
多様性や他人を尊重する学生・教員が多い		31件
性別による区別が少ない・不満を感じない		16件
その他		
「過ぎにくい」の理由		件数
取り組みを知らない・配慮を見かけない		18件
否定的な雰囲気・発言		4件
当事者に会ったことがない		4件
その他		8件
「どちらでもない」の理由		件数
取り組みを知らない・配慮を見かけない		123件
当事者に会ったことがない		167件
感じ方がわからない		164件
考えたことがない・よくわからない		7件
肯定的・否定的の両面がある		36件
意識していない・関心がない		16件
その他		

(9) 過去1年間に(新生は入学後)、本学でLGBTQ等、性の多様性に関する差別的発言、からかい、いじめなどを見聞きしたり、受けたことはありますか。



(10) 差別的発言・からかい・いじめなどを見聞きしたのはどのような場面・内容でしたか。(自由記述)

以下のような場面・内容が寄せられました。

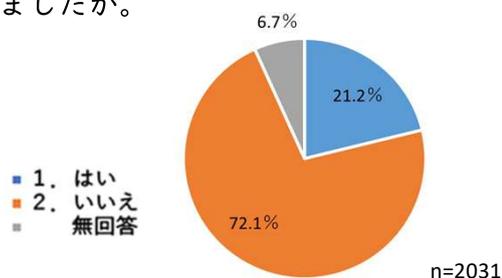
- ・「生物的に間違っている」といった発言
- ・「女、子どもは〇〇～」といった発言
- ・SNSで

**【ガイドライン・相談窓口の認知度・意見、要望：設問(11~13)】**  
7割の学生が「ガイドライン」の存在や相談窓口があることを知らないと回答。

(11) 本学はLGBTQ等、性の多様性に関する対応ガイドラインを策定し、対応を行っていますか、知っていますか。



(12) 本学では、LGBTQ等、性の多様性に関する相談を授業で受け付けています。知っていましたか。



(13) LGBTQ等、性の多様性に関する学生支援の取り組みについてのご意見・ご要望。(自由記述)

以下のような要望・ご意見が寄せられました。

- ・相談窓口、制度(ガイドライン)の周知
- ・パンフレットの配付
- ・性別欄の廃止・授業で触れる機会を増やせばよいと思う
- ・卒業後も生きる支援であるとよい
- ・無理に触れようとしないでよいと思う・必要ないと思う

## ま と め

過去の意識調査のご意見を反映した新しい取り組みとして、今年度は“多目的トイレのオールジェンダーロゴ表記”を行いました。このことが「過ごしやすい環境だ」という理由(設問8)に多く挙げられたことは、一定の成果と考えられます。しかし、本学の取り組み(ガイドラインの存在、相談窓口等)の認知度が昨年度と同じく約2割にとどまったこと、少数とはいえ差別的発言等がみられたことは、今後も継続的に取り組むべき課題があることを示しています。

性の多様性に関する本学の取り組みに対し「必要ないと思う・無理に触れなくても」というご意見がありました。特に困りごとを感じていなければ、そう思われる場合もあるでしょう。一方で、大学は様々な背景をもつ人が集まる場です。性のあり方もその一つであり、外からは見えにくくても、悩みや不安を抱える構成員がいる可能性があります。本学の取り組みは、特定の価値観を押し付けることが目的ではなく「知らなかったために誰かの人権を損なうこと」を減らし、誰もが過ごしやすい修学環境を整えるためのものです。この取り組みが、学生の皆さんの「多様な人々と協働していく力」の促進につながることを願います。